

NWEC（国立女性教育会館）男女共同参画推進フォーラム参加報告 CSW インターン企画
「ユースと考えるジェンダーの主流化～男女平等社会に向けた横断的アプローチ」

日本 BPW 連合会ヤング委員長 ニノ宮 寛子
日本 BPW 連合会ヤング会員 奥山 千波

国連女性の地位委員会（UN-CSW）に派遣されたインターンが帰国後、国内で取り組むイベントの一つに NWEC フォーラムでの企画があり、例年 EPD のポスター展示と共に行なっている。今年度も EPD の活動説明と GGGI の報告と分析をまとめた展示と共に採用され、出展した。奥山千波会員を中心に、「ユースと考えるジェンダーの主流化～男女平等社会に向けた横断的アプローチ～」のワークショップの動画配信を行った。バーチャル開催された CSW66 に当時留学先から参加した奥山会員は、ジェンダー学を主に学ぶ現地の対面授業と CSW のバーチャルイベントに両方出席し、その中でジェンダーの主流化というプロセスに興味を持ち、そのテーマで企画することにした。

◆概要

1. 実施日時： 2022 年 12 月 1 日(木)～22 日(木)
2. 様式：動画配信（撮影は 10 月 29 日に実施）
3. 出演者：
 - 企画者 奥山千波
 - 参加者 CSW インターンおよび OG
奥崎鈴彩会員、福田菜月さん、横井桃子会員
4. テーマ「ユースと考えるジェンダーの主流化～男女平等社会に向けた横断的アプローチ」
5. 閲覧人数 のべ 182 名（NWEC による報告）
6. プログラム（全 100 分）
 - ◇企画者の問題意識
 - ◇アンケート結果報告
 - ◇ワークショップ（以下、WS）
 - ◇総括

◆報告

企画運営者・WS ファシリテーター 奥山千波

[要旨]

2022 年 10 月に BPW 連合会会員対象アンケートを実施し、その回答を踏まえて、ジェンダーの主流化とは何か、そしてその必要性和活かし方を、政策のひとつである「起業支援」を例にとり、ユース 4 名でのワークショップを開いた。

はじめに企画者によるテーマの説明とアンケートの結果報告を行った。ジェンダーの主流化とは、目標ではなく、ジェンダー平等の実現のためのプロセスであり、開発政策、施策、事業は男女それぞれに異なる影響があるという前提で課題やニーズ、インパクトを明確にしなが、計画・実施・モニタリング・評価のあらゆる段階で踏むプロセスであることを共有した。

次に起業支援についてジェンダーの主流化という視点から、持ち寄ったデータを紹介し、ジェンダーに起因する違いを見つけ、バイアス、ロールモデル不足、ネットワーキングの困難さ、家事の負担、資金調達の不均衡などが不平等の原因であると議論し、以上の課題を政策に取り入れるためにどのようなことができるかという観点から、施策の周知の徹底、ライブイベントとの両立環境の構築、地域差の解消、資金調達への決定者のジェンダー不均衡の改善等を提案した。

そして CSW インターン OG で、母子支援 NGO で活動する山口紗都美さん、大学研究員の藤田典子 BPW 専務理事、元内閣府男女共同参画局長の名取はにわ BPW 理事長によるテーマや内容についての示唆を受け、最後に企画者から総括を述べた。



[アンケート概要・結果]

目的：「ジェンダーの主流化」という用語の認知度・理解度の把握
 対象：日本BPW 連合会会員
 期間：2022年10月4日～10月10日
 回答：55件（回答率23%）

「ジェンダーの主流化という用語をご存知ですか」という質問に対して、「知っている」と回答したのは40%、「知らない」と回答したのは56.4%であった。また、「ジェンダーの主流化という用語についてどれくらいご存知ですか」という質問に対して、「説明できる」と回答したのは18.2%、「聞いたことはある」と回答したのは25.5%であった。この結果から、男女平等の実現を目指すBPW会員間においても、「ジェンダーの主流化」が浸透しているとはいえない、あるいは説明しづらい用語であることが理解できた。

[ワークショップ概要]

テーマ：起業支援
 状況設定：政府は、小規模な起業家による起業を奨励し、支援するための政策枠組みを準備している

ジェンダー分析：

1. 入手可能な情報を収集する
2. ジェンダーに起因する違いを見つけ、ジェンダー不平等の原因を考える
3. 政策に取り入れる（不平等をなくすためにはどうすれば良いのか）

ユース4名の出演者が上記3点のジェンダー分析に対する自身の意見と分析結果を紹介し意見交換を行った。

2. ジェンダーに起因する違いを見つけ、ジェンダー不平等の原因を考える



(↑WS内でジェンダー分析2を議論した時の資料)

[総括]

ジェンダーの主流化という用語とその概念の浸透を目指すことで、ジェンダーに起因する違いを見つけ、不平等の原因を浮かび上がらせることになる。男女平等実現のためにその手法を使って考え、声を上げ続けたい。

[企画に対する意見・感想] ※

- ジェンダーの主流化という用語を聞いて難しそうだと感じましたが、ワークショップを見るとそれはとても必要なことだとよくわかりました。これからも様々な概念やプロセスについて知り、性別を超えて人々が平等な社会が当たり前の時代を創っていきたいと思います。
- この分野になじみのない方にも大変わかりやすい動画でしたので、素晴らしい啓発活動だと思いました。
- 短い動画にわかりやすくまとまっていて良かったです。EPDは恥ずかしながら初めて知りましたが、もっと認知度が上がるとよいと感じました。行政担当職員として何ができるか考えさせられました。
- ワークショップについて：難しいテーマ設定に対して、それぞれが身の丈で取り組み・理解された内容をストレートに発信されていた点が良いかと思いました。動画公開の選択をされましたが、ビジュアル面は良く整理・工夫されていた一方で、音声については、やはりプレゼンとして発声・発話などをもう一段聞きやすくしたり、トーンの変化があったりすると、聞く人の集中が削がれずにさらに効果的ではないかと感じました。

※配信動画視聴者（一般/BPW会員）の事後アンケートより

[企画運営を終えて]

留学時に初めてジェンダーの主流化という用語や概念を知った。本企画を通して、ジェンダーの主流化という用語が何を指しているのか、男女平等社会のためにどのように活かしていけるのかを考える契機になることを目指した。

アンケートやWS出演者の話から、理解しやすい用語の定義づけ、説明が必要であると同時に、ジェンダーの主流化を使用することで、不平等の原因を浮かび上がらせることに繋がると感じた。本企画運営にご尽力いただいた方々や出演者に心から感謝の意を表す。